



春の学生おぢばがえり  
**北海道より52名が参加**



第536号  
 発行所  
 天理教北海道教務支庁  
 札幌市中央区南8条西11丁目  
 電話 011(561)-1148  
 F A X 011(561)-1190  
 E-mail: kyokuh-h@vega.ocn.ne.jp  
 印刷  
 三浦印刷株式会社

**花4月、教祖ご誕生祭で賑わうおぢばに、  
 西垣教区長、感激のおぢばがえり。**

おかげさまで、無事退院させて頂きました。4月の教祖御誕生祭におぢばに帰ることが出来、感激の参拝をさせて頂きました。これからまたお道の上に一生懸命つとめさせて頂きますのでどうかよろしくお願い致します。(教区長)

北海道教区学生会(委員長・井谷歩矢)は、3月末に本部で開催された立教180年春の学生おぢばがえりに別席団参を兼ねて参加した。

期間は3月25日から30日まで総勢52名の参加となった。別席者数は21名で、その内初席が7名、おさづけの理拝戴は2名だった。

内容は本部月次祭参拝、前夜祭(27日)、式典・直属アワー(28日)、教区内や他教区との交流会など。人類のふるさとおぢばで道につながる仲間との親睦を深め、教えに触れる貴重な時間を過ごした。

**学生会委員長からの所感**

今年の北海道教区の春の学生おぢばがえりは、「一人の笑顔でみんなに笑顔を」をテーマに1週間通らせていただきました。これまでの春学を踏まえ、今年はおぢばに滞在する時間を長くしたいという思いから、25日に飛行機を利用しておぢばへと向かいました。26日には本部月次祭に、参加者全員で勇んで参拝させて頂きました。みかぐらうたを大きな声で歌う皆の姿を見て本当に嬉しかったで

す。27日の前夜祭では、北海道教区として「じゃがいもち」(いももち)の模擬店を出しました。昨年達成できなかった完売を目指し、作り手や売り子が一致団結して、30食全てを売り切ることができました。

そして、当日28日の式典では、真柱様からお言葉を聞かせて頂きました。「かしまの・かりもの」についてのお話で、日々の生活で心に修めていく事を誓いました。

私は、昨年の4月から委員長として「笑う学生会」をテーマに1年間通つてきましたが、集大成である春の学生おぢばがえりで総勢52名みんなが、笑顔で過ごすことができました。

今回、4月で委員長交代となります。最初は頼りない委員長でしたが、参加してくれた会員さん、スタッフのみんな、教区・支部の学生担当の先生方のご協力のおかげで、ここまで笑顔で通ることができました。一年間本当にありがとうございました。

学生会委員長 井谷 歩矢

天理教を介绍します  **天理教基礎講座** TENRIKYO BASICS COURSE どなたでもお聞きいただけます

《北海道会場の御案内》

- 5月7日(日) 13時30分 函館支部(地域交流まちづくりセンター 函館市末広町4-19)
- 5月21日(日) 13時30分 札幌白豊支部(天理教北榮分教会 清田区清田6条1丁目)
- 6月3日(土) 13時30分 教務支庁会場(山田常則 本部講師)
- 6月18日(日) 13時30分 千恵広支部会場(天理教漁分教会 千歳市長都38-4)

天理教基礎講座 検索  天理教基礎講座 北海道会場 Facebookページ  
<https://www.facebook.com/kisokouza.h>

北海道教区のホームページ <<http://tenrikyohk.wixsite.com/tenrikyo-hk>> 教区報をご覧頂けます。

# 布教の家新寮生紹介

## 「北の大地」に あらきとつりよう勇躍始動!!



で雨や雪も多く、それなりに慣れていたつもりでしたが、四月でも雪が降る北海道に早速洗礼を受けました。ですが、この厳しい環境だからこそ先人の方々の道を辿ることができると思うので、暑さにも寒さにも負けず、教祖のお供をさせて頂く持ちを常に持つて勇んでつとめさせて頂きたいと思えます。一年間宜しくお願いします。

### 布教の家寮生挨拶



三代 拓己 (28歳)  
笠岡・米府  
鳥取県・米子市

私は鳥取県出身で、高校までを過ごし、その後大学四年間と本部勤務六年間、計十年の天理生活を経て北海道の地にやってきました。

生まれ故郷の鳥取は日本海側



久米田忠義 (24歳)  
郡山・北盛  
北海道・小樽市

十八歳まで北海道で育つたので、土地には慣れているだろうと思っていたのですが、六年北海道から離れていたので全く体は慣れていなかったです。

入寮の理由としては、にをい

「あしきを はらうて・」と唱える声は、様々な体験を経て、この日を迎えられた大きな感激とお礼、そして将来を指

「あしきを はらうて・」と唱える声は、様々な体験を経て、この日を迎えられた大きな感激とお礼、そして将来を指

## 「人材育成には 自らの育つ努力が大切」

函館支部長  
大野 成一



成に携わる立場の者として相應しい姿、親の思いを求める姿勢の大切さを改めて意識したいものである。

目には見えないが、現れていることの中に心を注ぎ、親神様の思いを探りながら歩む姿に、後に続く者が育っていく理があるのではないだろうか。

根が浅く折れてしまう。根が深く伏せ込みにより、根に肥をすくことの大切さをしっかりと伝えたいものである。

「・これ根のある花は遅くなる。なれども年々咲く。又枝に枝が栄える。根も踏んばる。こゝの道理をよう思やんしてみよ。」

(おさしづ 明治二四・一一)

この道につながるお互いは、先々を楽しみに、しっかりと丹精に当たらせていただき、この旬に相應しい成人の歩みをさせて

## 「YOSAKOI」 ひのきしん大募集

今年は、「会場内清掃」に加えて、「インフォメーションセンター」での通訳・案内等の依頼を受ける事となりました。片言しかできなくても、興味のある方であれば、どなたでも参加できます。

### ◆日時

6月10日・11日  
(1日のみ、短時間での参加も歓迎します)

- ・場内清掃・ゴミ拾い  
9時半～夕方まで
- ・インフォメーションセンター  
9時半～21時半まで

### ◆集合場所 (休憩所)

- ・7丁目  
インフォメーションセンター横

### ◆お問い合わせ

- ・よさこい担当  
庄田道則まで  
090-2077-1518

### ◆教務支庁発バス

- ・両日とも朝9時から  
毎時会場行バス有

寒い冬から解放されて春を迎えると私たちの気持ちまで暖かくなってくる。そんな時に咲く桜の花は本当に美しい。そして桜の開花はめでたい事、楽しい事に形容される。受験に合格した知らせを電報などで「桜咲く」と書いたりするのである。ただ桜の花の咲く期間は短い。東の間の満開時に、冬から解放された人々が花見の宴を催すのはそんなところにもあるのではなからうか。

でも桜は散るからこそ意味があるのである。永遠に散らさずに咲いているとおそらく人々は感激しないであろう。咲く時期、美しさ、そして短い命のいとおいさに、散り際に名残りの心を寄せるのである。

ある人が「人の一生は桜の花と同じようなものだなあ」と云ったが、私たちお互いは生まれて花開き出直して散って、はかなくそれをくり返している。云うのだろうか。では私たちはどんな時期にどんな開花をしてきたのだろうか。「いや私は今までに満足に花開いていません」と云う人もあろう。しかし誰でもそ

の人なりにつぼみのようなものであっても必ず開花はしている。人生の花開きは人によってその内容は皆違うのである。従って人々と比較するものではない。人生の開花は自分自身が主体として感じるものであって、一般的な評価は意味をなさ

『教理随想 十五』

桜の花

木岡 昭

与えられずこの世に投げ出されたようなものである。しかし人は個々の主体と心を与えられているので、成長と共に自分の人生は自分で一切責任をもたねばならない。その上、生きる期間も大体決められている事も承知しなければならぬ。そんな私たちが、いたずらに他人と開花を競ったり見較べたりして、名残りを惜しむ人生となっては悲しい事である。

さて、人生に於て過去にいくらすごい花を咲かせたとしても過去は過去である。おむね年輪を重ねてきた人で不平の多い人は、現在に勇みがなくて自分の過去の栄光にしがみついている人である。すぎた花はその時で終わりであると知るべきだ。人は常に心が前向きでないと喜べない。心が前向きであるとなんな状況であろうと必ず勇んでいる筈だ。勇み心は喜び心を産む。前向きとは、自分とか自分の家庭にのみ閉じこもらないで、人のために心働かせることである。そうでないと自分勝手に名残りを惜しんでいくのみだ。

ない。どれだけ社会的に認められた人でも心の貧しい人には満開はなく、反対に心豊かな人の人生は満開を感じているだろう。そもそも私たちがこの世に生れ出る事には知らされる事はない。自分の希望や条件も

余市支部で第四回

「おたすけ勉強会」開催

余市支部では、三月一九日、積丹分教会を会場に、「第四回おたすけ勉強会」を開催した。

講師は、高知大学准教授、心理学博士、金山元春先生（淀分教会所属・布教所長）。先生は、大で、カウんセリング、教育相談、心理学について教鞭を執っておられる。

参拝に続き、開会の辞の中で支部布教部長は「すでに陽気ぐらしの心得を教えていただいている我々だが、諸問題が錯綜する日常の信仰生活の中で、生き生きとした悟りの世界を取り戻すために、カウんセリングが様々なヒントを与えてくれるように思う」と述べ、その後早速金山先生の講演が始まった。

講演の冒頭、先生は、「カウんセリングとは、人間関係の営みであり、人間関係を大切にすることである」と述べられ、受講者を「二人一組」に分け、お互いについて知るために、自己紹介をし、また先生の問いかけについて、その都度相談したりと終始話し合う場面がもたれた。

講演の中で「一般的にもこの見方、そして問題というものに気づいた時には、その問題はどこから来たのだろうか」と原因探しをしてしまう。又人間関係の問題は、いつの間にか犯人捜しになることがよくある。」と述べられた。さらに

「しかしそれは逆効果です。問題というものに気づいたときは、どうなればよいだろうかという『未来の姿』、より良い『解決の姿』を思い描く。未来に役立つであろうリソース（こうなったらいいなという未来を叶える言葉や、その人の得意な事、好きなもの、関心のある事）を探してみましよう。」という未来志向、解決志向の話など、実際のおたすけに役立つお話を学ばせていただいた。

参加者五七名





### 新会長さん紹介

(平成29年3月26日お運び)  
十勝支部

幕別分教会(秦野)

奉告祭 4月9日



八重柏 新治 氏 (60歳)

(平成29年4月18日お運び)  
札幌白豊支部

常豊分教会(網走)

奉告祭5月21日



藤井 広志 氏 (43歳)

### 学生会 新委員長

吉田 徳香さん  
(膽勇・日高支部)



#### 青年会主催

#### 『ジョイアスボール カップ』札幌2017

4月23日、教区青年会主催のYVプロジェクト『ジョイアスボールカップ』札幌2017が札幌市南区にあるフットサルコートにて開催され、29名が参加した。

この大会は、「ボールを届け、世界の子ども達に喜んで頂こう!」を合い言葉に、全国各地で、チャリティーフットサル大会を開催している、有志の団体『天理フットボールネット』の後援を受け、毎年開催させて頂いておられます。今回の『ジョイアスボールカップ』札幌2017で集まった寄付金も、N GO団体を通じて、世界中の子ども達に届けさせて頂きます。



またこの大会は、チャリティーという観点だけではなく、「青年会員同士が交流できる会」という趣旨も込められています。現在、教区青年会では、若き人材の発掘・育成・丹精、支部活性化の為に、みんながワイワイ盛り上がる事が出来る企画を推進しています。今回もお道を全く知らない、一般の方も数名参加してくれ、大会終了後には「また声を掛けて下さい」との嬉しい言葉も頂きました。この大会を通して「青年会の活動ってなんだか敷居が高くてとつきにくい。」と思っている会員さんに「青年会って何だか楽しいな。」と感じて貰えたのではないかと感じています。

#### 北海道教務支庁日誌抄

(3月20日～4月19日)

3月 25日 学生会 春の学生 おちばがえり出発

26日 本部月次祭選拜式

29日 図書修理会

4月 1日 たすけ推進会議

布教の家 北海道寮

入寮式

2日 支部長会議

福祉厚生部

福祉担当者会議

8～9日 学生会 例会

18日 教祖御誕生祭選拜式

19日 教区報編集会議

#### 計報

・中村長靖様 3月8日出直 (92歳)

・幾寅分教会前会長 (富良野支部)

・平崎サダ子様 4月5日出直 (98歳)

・厚岸分教会会長 (釧根支部)

#### けいじばん

#### ◎雅楽講習会

日時…5月3～4日

受講費…3000円

(少年会員1500円)

#### ◎法律に関する諸問題でのご相談

の方は弁護士を紹介いたします。

教務支庁の書記(渡部)までご連絡ください。

◎毎月26日に本部月次祭選拜式

を行っております。